

令和元年度行政評価委員会 議事要旨（未定稿）

| | |
|------|---|
| 会議名 | 第3回葛飾区行政評価委員会第二分科会 |
| 開催日時 | 令和元年7月26日（金） 午前10時から正午まで |
| 開催場所 | 葛飾区役所5階 庁議室 |
| 出席者 | 【委員7人】 小松原会長、大畑委員、上村委員、田中委員、谷本委員、西山委員、村上委員 【区側9人】 事務局（政策経営部長、経営改革担当課長、事務局職員4人） 健康づくり課（健康づくり課長、健康づくり係長、職員1名） |

会議概要

1 開会

（事務局より資料の確認等を行った）

2 事務事業の概要説明及びヒアリング（20歳代・30歳代健康診査）

（健康づくり課より「20歳代・30歳代健康診査」の概要について説明をした後、質疑応答、議論）

A委員：検査委託料の具体的な内容と金額を教えてください。

健康づくり課：例えば、問診、身体検査で1件あたり3,045円、尿検査は1件あたり280円である。医療を受けた時の保険点数に準じた金額で委託している。

A委員：受診者が増えると委託料が増加することは問題ないか。

健康づくり課：疾病が早期発見されることで、医療費が結果的に下がれば、健診の効果があったと考えている。

A委員：PRポスターなどで広報はしていないのか。

健康づくり課：チラシを配布しているが、ポスターは配布していない。

A委員：PRポスターでの周知は大変有効だと思う。受診率の高い江戸川区は、ポスターなどの広報を行っているようだが、どのように実施しているか確認しても良いのでは。

B委員：ハガキにQRコードが記載してあるが、スマートフォンなどの読み取るツールを持っていない人はどのように申し込むのか。

健康づくり課：ハガキで申込みができる。

C委員：20歳代、30歳代は全員対象者なのか。

健康づくり課：全員ではない。例えば生活保護を受けている方や、国民健康保険に加入している方などが対象になる。

C委員：対象者は全員把握しているのか。

健康づくり課：把握できていない。

C委員：受診者を増やしたいのか。

健康づくり課：その通りである。

C委員：対象者を把握しないと、受診者を増やすことは難しいのでは。

小松原会長：勸奨ハガキは年度末に20歳、30歳になる人全員に送付しているのか。

健康づくり課：その通りである。

C委員：生活保護の受給者が何人受診したか把握しているか。

健康づくり課：把握はしていない。

小松原会長：もし人数が分かれば次回教えてほしい。

D委員：「葛飾区の健康増進事業」における本健診の対象者の記載内容が非常に分かりにくい。「今年度中に20歳～39歳になる方」という書き方では1度しか受けられないという誤解を与えるのではないかと。文言を含めて改善するべきだ。

E委員：広報が足りないと感じるがどうか。

健康づくり課：個別通知の効果は感じている。20歳から39歳まででより健診を受けてほしい年齢層に絞って個別通知に力を入れることをしていきたいと考えている。

E委員：セミナー、ポスターなどでより一層啓発することも大事ではないか。勸奨ハガキを送付するだけでなく、相談窓口を設置することも有効だと思う。

事務局：区では、社会保険に加入している区民の人数は把握していない。マイナンバーなどを活用すれば把握できると思われるかもしれないが、使い道が限定されており、連携が取れない現状がある。そのため、漏れがないように、20歳、30歳の区民全員に勸奨ハガキを送付している。

F委員：要医療者の年齢別のデータを次回資料として示してほしい。20歳代、30歳代に健診の意義がどれほどあるか疑問である。事業の目的が、疾病を早期に発見することならば、疾病を発症しやすい年

年齢層にコストを投入することが一番だと思う。江戸川区が実施している事前申込みなしで受診できる制度は良いと思う。申込みまでのステップが面倒だと、若年層は申し込まない。足立区、江戸川区以外のデータも資料として次回示してほしい。

B委員 : 対象者だけでなく、家族にも町会の回覧板などで周知できると良いのでは。

A委員 : ポスターを活用すれば、家族にも周知できるのではないかと。長野県のように、健診に行く前段階で啓発が出来ると良い。
2歳刻みで勸奨ハガキを送付する方向性は良いと思うが、20歳代ではなく、30歳代に深くアプローチするべきだ。セミナーや成人式でPRすることも良いのではないかと。

D委員 : 勸奨ハガキでも毎年継続して受診できることをもっと訴えた方が良い。

小松原会長 : 30年度の予算が減っているのはなぜか。

健康づくり課 : 予算は過去の実績見合いの相当額になる。

小松原会長 : 受診勸奨については、効率、効果を鑑みて、年代をもっと絞って実施すると良いと思う。封筒や、印刷費は毎年見直しがあるから、費用がかかるのか。

健康づくり課 : その通りである。印刷分の内容は、毎年見直しがあるため、今年度使用した印刷物を翌年度に使用することができないため、費用がかかることになる。

A委員 : 若年者を対象にするならば、動画配信でPRするべきではないかと。ハガキでの申込みは、受診するまでの行動に移すことが難しいのでは。

F委員 : SNSでの広報をなぜやめてしまったのか。効果を検証してから、やめるべきではないかと。

健康づくり課 : 検証はしていないが、どれだけの効果があるかわからなかったため、中止した。受診票のなかに、何を見て、健診を受けたか調査をすることはできると思う。

C委員 : 対象者は絞るべきだ。どの年代が一番受診しているのか。

健康づくり課 : 30歳代の女性が一番多い。

C委員 : 本当に受診してもらいたい方にPRするべき。健康診査は、引きこもっている方が外に出るきっかけにもなる。そういう方にPRすることも有効な手段だと思う。

E委員 : ボランティア団体や民間団体に協力してもらい、高校生に啓発活動をして良いのでは。

F 委員 : 30歳代女性の受診が多いということだが、女性特有の病気をチェックする「レディース健診」を考えてはどうか。女性限定の健診は安心感がある。30歳代の健診と同窓会などのイベントとセットで行うと若い人も参加するのでは。

小松原会長 : 今年度から7月から10月に実施期間を変更したということだが、今年度以降も継続するのか。

健康づくり課 : その通りである。

A 委員 : 夏の暑い時期に実施期間を変更すると、若い人は参加しないのでは。葛飾区の事業所にポスターなどで啓発することも有効だと思う。

C 委員 : 対象を20歳代、30歳代に絞って事業を実施しているのはなぜか。

健康づくり課 : 40歳以上は、医療保険者が実施する特定健診制度がある。健康を意識するのは40歳以上からだと思うが、30歳代の健診結果を見ると、生活習慣を改善する必要がある人もたくさん見受けられる。

C 委員 : 20歳代にやる必要はないのでは。40歳手前にターゲットを絞って事業を実施した方が良いと思う。

健康づくり課 : 20歳代の結果は確かにそれほど悪くないが、健康の意識を持ってもらいたいと思っている。

C 委員 : 20歳代、30歳代に力を注ぐ必要はないのでは。40歳を超えた区民に対して力を入れてほしい。

健康づくり課 : 生活習慣病は毎日の習慣が大事。40歳になって突然病気になるわけではない。20歳代、30歳代の時から健康意識をもっていたきたいと考えている。

A 委員 : 若年層には、精神的な健康面のフォローが大事なのでは。健康診断よりは、気軽に相談できるような切り口の方が、受診率は向上するのでは。

F 委員 : 年齢別、男女別の要医療者数も教えてほしい。結果のフィードバックも、「良好」で終わるのではなく、足りない栄養素を教えるなど、充実させた方が良い。

E 委員 : 事業に対して、医師会の反応はどうか。

健康づくり課 : 健診の必要性は高いという意見を頂いている。

C 委員 : 中学生、高校生の健康意識を高める啓発事業の方が重要では。

小松原会長 : 検査キットを送るなど、健康診断に行かなくても検査できる方法を考えても良いのでは。

B 委員 : 事務事業目的にあるとおり、健康意識を向上させることが必要だと思う。予防医学を普及させてはどうか。

小松原会長：この事業はいつから実施しているのか。

健康づくり課：平成 17 年度からである。当初は 30 歳代のみを対象としていた。
平成 18 年度から、20 歳代に拡大した。

小松原会長：生活習慣病予防教室など、予防事業との住み分けが分かる資料を
次回示してほしい。

A 委員：検査キットはオプションで有償が良いと思う。本人確認が難しい
ケースも考えられる。対象の年代を変えないならば、なぜ、20 歳
代、30 歳代が受診するべきか、検査の重要性を、本人だけでなく
家族にも伝わるように PR するべきだ。

F 委員：検査キットはどのくらいの値段なのか。検査キットを使用してい
る自治体があれば教えてほしい。

A 委員：検査の種類によって様々だと思う。

E 委員：コストの内訳の印刷製本費で、「封筒等」のなかに何が含まれて
いるのか。

健康づくり課：受診票、医療機関一覧表、勸奨ハガキなどである。

E 委員：PR のための経費が入っていない。PR についても検討してほしい。

3 その他

事務局より事務連絡

4 閉会